

秋号

第319号

一粒の麦

社会福祉法人エデンの園

2020年10月17日

ひとつぶのむぎ



夏祭りしたいでshow(エデンの園)



ミニカラオケ大会 (GH みらい)



ふれあいサマーフェスタ (ふれあい)



陶芸教室 (麦わらぼうし)



大坪農材でのお仕事 (つむぎ)



敬老会 (GH ほのか)

聖書のことば

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。
しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。(聖書 ヨハネの福音書12章24節)

～ メダカとコリウス ～

統括施設長 廣瀬 恵



不思議なのは、私がメダカや草花に興味を持ち、育てているということです。半年前までは考えられませんでした。きっかけは職員のエドさんが持ってきた20匹ほどのメダカです。新型コロナウイルスのために外出の機会が制限される利用者にとって少しでも楽しいことを増やしたいと中庭で飼うことにしました。卵を産みつける道具や水草もセットで、3週間ほどすると1ミリほどのかわいいメダカ50匹以上が孵りました。メダカはみるみる増え、新たに水槽を準備して玄関口でも飼育するようになりました。利用者も職員も水槽をのぞき込んで「かわいい」「ちっちゃいね」と水槽の周りがにぎわうようになり「そっとのぞいてみてごらん」と書いたポスターを水槽のそばに貼りました。ある日、丸山ゆみさんの絵を見てびっくり、なんとそこにメダカが3匹と水草が描かれているではありませんか。丸山さんは時々メダカに給餌していたのです。

「施設長、今から熱くなるのでメダカにも日陰が欲しいですね。」朝倉看護師のアドバイスで思いついたのが、草花で日影を作ることでした。さっそく安価で育ちやすいコリウス、日日草、マリーゴールド、サルビアの苗を仕入れ栽培を始めました。ついでに空いている花壇や門壁のハンギングバスケットにも植えることにしました。月2回ほどの作業に「一緒にやりませんか」と声をかけると数名が参加します。プランターの鉢底にボラ土と肥料の混じった土を入れ、ポットから苗を取

り出して植え、最後に水をたっぷりあげます。途中で苗土が壊れたり、斜めに植わったりしますが、かまいません。最後にちょっと手直しすればちゃんと育ちます。中園さんはその日から毎日水やり当番を買って出て「つむぎ」から帰ってくると、じょうろ1杯の水を注いでいます。成長した草花は花瓶にさして室内でも楽しむようにしました。

「コリウスが大きくなったですねー。これ、紫蘇の仲間です挿し木すると増えますよ。」とパート職員の田代さんから教えてもらいさっそく挑戦しました。挿し木作業には10名の利用者が入れ代わり立ち代わり参加しました。2週間ほどすると半分以上が発根し、同じように皆とプランターに植え替えました。

10月、最初に購入したコリウス3株は数十株ほど、青々と風に揺れるコリウスを見るとすがすがしい気分になります。新型コロナウイルスのために何かと制限の多かったこの半年でしたがこれからも新たな生活様式を工夫しながら一人ひとりの社会生活支援や生きがい支援を進めたいと思います。「もう1回挿し木やってみますか？」と尋ねる私に「やります。コリウス大好き」と岩元さん。草花を育てる楽しみは続きそうです。

神は仰せられた。「地は植物を、種のできる草や、種の入った実を結ぶ果樹を、種類ごとに地の上に芽生えさせよ。」すると、そのようになった。（聖書創世記1章11節）



めだか（絵：丸山ゆみ）



玄関のコリウス

それぞれの事業所から

エデンの園 第1福祉課

●エデンの園

コロナウィルス自粛の中で、
施設の取り組みを紹介します。

コロナウィルス感染が落ち着いたなあ～と思っていたところに、7月から第2派の波が、エデンの園がある国富町まで襲ってきました。エデンの園では、施設が一丸となり「感染ゼロ」を維持しています。しかしながら、自粛ばかりではたまりません。そんな、自粛時に職員が考え、利用者を楽しんで頂いた行事をちょっとだけ紹介しまーす！！

今回はゆり棟での「かき氷づくり」とばら棟・すみれ棟合同の「夏祭り」をご紹介します。

まずは、ゆり棟です。8月の猛暑も厳しく、コロナウィルスで中々外に出られず、お祭りも中止・・・そんな中、少しでも「夏」を感じてもらおうと、かき氷作りを皆さんに体験して頂きました。楽しい雰囲気の中、見た事も無い機械に戸惑っている方もいましたが、職員と一緒に皆さん綺麗なかき氷を作り上げていざ、かき氷タイムです。美味しかったのかおかわりしようとする方もおられました。

次は、ばら・すみれ棟です。夏と言ったら、祭りですよ。9月には「夏祭りがしたいでSHOW」を開催。かき氷や焼きそば、輪投げ、もぐら叩きなどの屋台を設け、楽しみました。自粛中、少しでも充実した日々を送って頂こうと、職員一同思考錯誤しながら利用者の皆さんと過ごしています。今後も日々の生活の中で少しでも「生きがい」に繋がる「スパイス」を入れる事が出来ればと思います。

生活支援員 福嶋 一途



かき氷づくりの様子



一生懸命丸めてます！

●エデンホーム三名

お団子づくりはお手のもの

「はい、運玉ができました～」と次から次へとお団子が出来上がります。ホームみらいでの日曜日の一コマです。お盆という事もあり、みんなでお団子を作りました。皆さんお団子を作るのはお手のもの。なにせ、ホームみらいで生活されている方は、エデンの園での陶芸経験者がほとんど。「もっと、作りたいです」との声も聞かれました。出来上がったお団子はおやつで頂き、笑顔いっぱい時間を過ごしました。

エデンホーム三名 サービス管理責任者兼世話人 林 裕一

●エデンの園 ふれあい

2020サマーフェスタを行いました。

夏本番の始まりであった、7月17日(土)に毎年恒例のサマーフェスタを開催いたしました。今回はコロナウィルスの影響で、少し縮小する形でのサマーフェスタとなりました。昨年1年間の様子をスクリーンに映し出し懐かしんだ後は風船釣りをを行いその後は職員が汗水たらしながら焼いたお肉やハッシュドポテト、綺麗にデコレーションしたデザートを食べました。お昼からは「ふれあい」を代表するバンド、SKBによるコンサートを行いました。例年に比べ縮小した形ではありましたが「夏」を感じることが出来たのなら幸いです。今後も様々な行事を計画し利用者の皆さんと一緒に過ごせたらと思います。

エデンの園 ふれあい サービス管理責任者 谷口 博孝



風船釣りしました～！

エデンの園 第2福祉課



保利チーフの挨拶です！



オバサン...ではなくてマツケンサンバ!!
皆ノリノリです♪

●エデンホーム森永(青い鳥・ほのか)

敬老会を行いました。

今年度はコロナ禍によりホームの利用者は活動の制限を余儀なくされています。そんな中『敬老会をやりたい!』と利用者の声があり、楽しい事、面白い事が大好き!な利用者と職員が力を合わせて準備をしました。力強い「祝敬老」の幕を筆頭に利用者手作りの紅白幕、紅白輪っか、ウエルカムボード等々、ほのかのホールは華やかになりました。

そして敬老会当日・・美味しそうなお馳走が並び、利用者と職員ペアでの出し物「つるかめクス(細い鶴と可愛い亀のダンス)」、世の奥様方を賑わせた「マツケンサンバ(オバサンサンバ!?)」、もはや誰が分からない山雄三による「上を向いて歩こう♪」、そして特別ゲスト「フランク朝倉氏」も来られ敬老会は大いに盛り上がりました。利用者も一様に「面白かった、楽しかった」と言われ職員共々満足した会になりました。

世話人兼生活支援員 前田 聡 美

●放課後デイサービス麦わらぼうし

麦わらぼうし陶芸教室

9月19日(土)に麦わらぼうしで陶芸教室が開催されました。講師は当事業所の山本和寛チーフが務めました。今回初めて陶芸用の粘土を手に触れた児童もおり、「難しいなあ〜」と言いつつも、今回参加した児童全員作品を作り上げる事が出来ました。その作品1個1個それぞれの個性が溢れており、とても有意義な時間になりました。

児童指導員 星崎 悠成



陶芸教室の開始です!

●就労継続支援B型事業所つむぎ

新たな就労の場での作業を始めました。

新型コロナウイルスの影響で、多くの障害者就労事業所が生産収入減に見舞われ、利用者の生活に影を落としているなか、幸いにもつむぎでは大きな影響もなく、近隣地域の方々のご協力もあり一定の作業量の確保が出来ました。7月に発生したコロナ禍により高齢者施設での清掃作業等が休止や短縮となりましたが、新たに大坪農材様の作業が開始されました。作業内容は野菜の収穫作業等ですが、作業に参加される利用者の方々はとても熱心に作業されています。

今後も過ごしづらい環境が続くと思われませんが、利用者様一人ひとりの体調に気をつけて作業には励んでいきたいと思っています。

就労継続支援B型事業所 つむぎチーフ 大山 貴司



大坪農材での就労

アート作品コーナー

時間を見つけては、スケッチブックに絵を描く尾崎長子さんの表情豊かな友だちの顔です。
(タイトルは担当者)



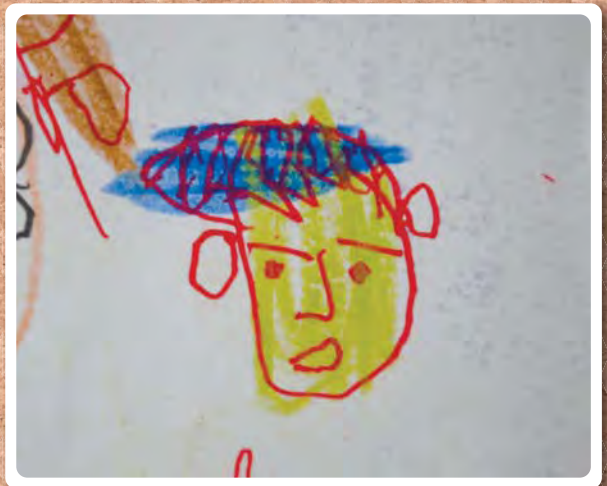
黄色い微笑み



大丈夫ですよ



空をとびたい



理想の彼氏



角がでています



ゴーウィングマイウェイ

「古井戸の泥～カウンセリング」

相談支援を行っていく中で、警察関係の方との連携を図ることも少なくない。
先日、連携を図っていく中で「古井戸の泥」の話をして下さった。

触法少年の多くは、とても根深いものを抱えていることが多々ある。そのような時には、カウンセリングが必要。カウンセリングは、誰にでもできる。例えば、古井戸一杯に泥がたまっているようなもので、それをバケツでどんどん出していくのではなく、ひしゃくで、ちょっとずつ、ちょっとずつ地道にすくい出していくような作業。しかし、そのうち、何かにひしゃくが触れることがあり、取り出してみると、投げ込まれた古い自転車。それを取り除き、また、地道にちょっとずつ、ちょっとずつすくい出していく。古井戸の溜まった物や泥を全て取り除いた時に、井戸から清水が湧き出てくる」そのようなイメージ。（清水：更生・変化でしょうか？）本人しか解決できないけれど、自分で整理していく過程を非難せず、時間は係るけれども寄り添っていくことがカウンセリング。

時に結果や変化を求めて、焦りを感じることも多々ある。幸いというのか・・・私たち相談支援専門員は、時に生まれる前から、最後までを支援させていただける。今はまだ、カウンセリングの技術や知識は無いかもしれないけれど、寄り添うことはできる。清水が湧き出る日まで、寄り添うことができれば、私自身も幸せを感じるだろう。

※触法少年：刑法令に触れる行為をした14歳未満の児童。処罰対象から除外される。



玄関わきに咲いた「つるぼ」

土曜学校メッセージ

金垣基牧師（宮崎めぐみ教会）、印慶子牧師（宮崎柳丸キリスト教会）
海老原直宏牧師（宮崎北聖書キリスト教会）、山口英希牧師（宮崎清水町教会）
荒平大輔牧師（宮崎北聖書キリスト教会）

寄贈品・寄附金・ボランティアありがとうございます。

エデン園家族会様、宮崎清水町教会様、半田和子様、田代和明様、重水信廣様、
都城音訳・点訳友の会様、宮王丸郵便局様、ライフサポート様、渡辺工務店様
綾グリーンガーデン様、うからの里様、サクラプリンティング様

編集 後記

暑い、暑い「夏」もいつしか過ぎ去り、次第に過ごしやすい季節になってきました。今年も寒暖差の激しい気候が続くような心配が致します。それに加えて、いまだ終息の見通しが立たないコロナウイルスですが職員一同健康面に十分配慮しながら皆様と一緒に一步一步前に進めたらと感じます。今後ともよろしくお願いいたします。

第1福祉課 谷 口 博 孝